

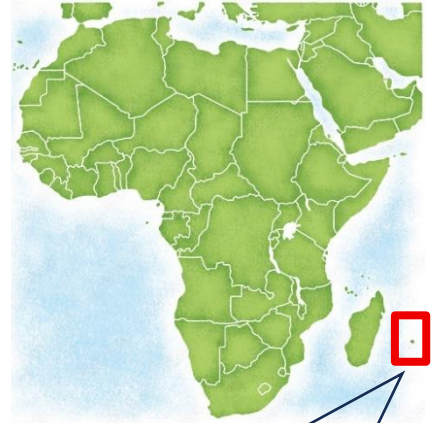


つうしん ナミビア通信

JICA 青年海外協力隊
2023 年度 | 次隊
エロンゴサ小学校
吉野 葵
2025 年 8 月 第 43 号

皆さんこんにちは。ナミビアの小学校で先生をしていた吉野です。
(7月末に日本に帰国しました。)

今回も前回に引き続き、私が訪れた国を紹介していきます。今回紹介する国は、私がこのアフリカー人旅で最後に訪れた国「モーリシャス共和国」です。モーリシャスは、マダガスカルマダガスカルの東側に位置する島国です。東京都と同じくらいの面積の小さな国ですが、美しい自然や興味深い歴史など見どころが多く、旅行先としても人気の国です。



このあたりにあります。フランス領のレユニオンの隣です。

基本情報

モーリシャス共和国

面積	2040 km ² (ほぼ東京都と同じ)
人口	126.1 万人 (2023年データ)
首都	ポートルイス
民族	インド系、クレオール系が大部分。その他フランス系、中国系など。
言語	英語 (公用語)、フランス語、クレオール語
宗教	ヒンズー教(52%)、キリスト教(30%)、イスラム教(17%)、仏教(0.7%)



参考・引用(モーリシャス共和国 | 外務省)



↑ 国旗

赤は独立のために流された血、青は海(インド洋)、黄色は自由と太陽、緑は国土と農業を表しているそうです。



↑ 通貨

(引用: Mauritius Currency and the Mauritian Rupee - Mauritius Attractions)

モーリシャス・ルピーという通貨を使っています。1 モーリシャス・ルピーは 3.25円ほどです。

食べ物

様々な系統の料理がありました。「ロティ」や「ダールプリ」と呼ばれる小麦粉の生地でカレー味の豆を巻いたものがよく道端で売られていました。インド系の人が多い国なので、インド料理屋も多くありました。



↑ ダールプリ



↑ インド料理屋のカレー

モーリシャスの歴史

モーリシャスは、多くの文化や民族が共存する国です。その背景には、様々な国による植民地支配や、多くの移民を受け入れた政策など、とても興味深い歴史があります。

1638年	オランダによる植民地支配のはじまり（1710年に撤退）
1715年	フランスによる植民地支配のはじまり 労働力のためにアフリカから奴隷を連れてくる。（奴隷制）
1810年	フランス対イギリスの戦争でイギリスが勝利。イギリスによる植民地支配のはじまり。 ※しかし、イギリスから多くの移民が来たわけではなく、フランス人たちがそのまま島に残ったことで、今でもフランス語が英語以上に話されているのだそう。
1835年	フランスによる植民地時代に、奴隷制により連れてこられていた奴隷たちを解放することが決まる。（奴隷解放） ↓ 奴隷解放により労働力が不足し、それを補うためにインドから多くの移民を導入。 （この出来事により、モーリシャスで最も多い民族がインド系となった。）

世界遺産の山「ル・モーン (Le Morne) 山」

モーリシャスで私が最も楽しみにしていたことの1つが、「ル・モーン山」に登ることです。標高が556mしかない山なのでガイドさんを付ける必要もないのですが、私は世界遺産であるこの山についての説明を聞きたいという思いからガイドさんを付けました。そしてそのガイドさんから、とても興味深く、でもとても悲しい話を聞きました。この山が世界遺産に登録された理由にも関係している、その悲しい話を、皆さんにも紹介したいと思います。



↑ル・モーン山

【ル・モーン山で起こった悲しい出来事】

フランス植民地時代、奴隷制によって奴隷としてアフリカの様々な国から連れてこられていた人々の労働環境はひどかったそうです。そのため、ある時そこから多くの奴隷たちが逃亡し、ル・モーン山で隠れて生活をするようになりました。しかし1835年に奴隷制は終わりました。彼らは晴れて奴隷として働く必要がなくなったのですが、外からの情報を得ずに山の中で生活していた彼らは、奴隷制が終わったことを知らないままでした。その頃、この山に隠れて暮らしている奴隷がたくさんいることを知った警官たちが、彼らに対して「奴隷制が終わったからもう隠れる必要はない」ことを伝えるためにル・モーン山にやってきました。それを、警官が自分たちを奴隷として引き戻そうとしているのだと勘違いした彼らは、山に登ってくる警官から逃げるために山をひたすら登りました。ついに登りきって逃げ場がなくなった時、彼らは警官に捕まるよりも山から飛び降りることを選び、亡くなりました。ほとんどの人が西の方角に向かって飛び降りたそうです。その理由は、母国（アフリカ大陸の国々）が西側にあったからだといわれています。